

平成30年 春の特別展

# となみの伊しよめさん

2018年  
4月20日金  
▶▶▶ 6月3日日

チューリップフェア期間中は無休となります。  
2018年4月20日(金)～5月5日(土・祝) (開館時間 8:30～17:30)  
※チューリップフェアの入場券が必要です



入館無料

会場 砺波市立 砺波郷土資料館

〒939-1382 富山県砺波市花園町1-78  
TEL:0763-32-2339/FAX:0763-32-2436  
Email:shiryokan@city.tonami.lg.jp

開館 午前9時～午後5時 休館日 毎週月曜日・第3日曜日

主催 砺波市立 砺波郷土資料館

共催 (公財) 砺波市花と緑と文化の財団

砺波地方の嫁入りのならわし

時代は変わっても  
形を変えても

受け継がれる  
砺波らしさ



### お引き(おてひき)

花嫁はお引き(嫁ぎ先の親類の女の子)に導かれて家の中へ入る。広間まで案内される  
⇒振袖で着飾った女の子二人を整えるのは、色々と負担も多いことから、現在ではお引きするならわしはめずらしくなった。



### 嫁のれん

広間に掛けられるのれん。嫁側が用意し、一生に一度、嫁入り当日のみ使用する。吉祥模様が描かれ、嫁の実家の紋を染め抜く。完全オーダーメイドの高級品。旧加賀・能登・越中地域の上流の旧家などの嫁入りの風習。  
⇒戦後、経済的負担や非実用的なしきたりを簡素化する運動や生活様式の変化等により、嫁のれんの風習はまれになった。しかし最近では、結婚衣装のレンタルや婚礼写真の前撮りの中に嫁のれんが組み込まれることもあり、イベント的に行われることもある。



カゴ盛り ナマガシ 鯛の細工かまぼこ

### 引き出物 (鯛の細工かまぼこ・カゴ盛り・ナマガシ)

富山県の結婚式の引き出物は、持ちきれないほど品数が多く重いことが、招待客へのおもてなしとされている。特に鯛の細工かまぼこは30cmを超えることも珍しくない。いただいた細工かまぼこは、切り分けて親しいご近所へおすそ分けをする習慣がある。鯛の尻尾部分をあげることは失礼にあたるので自家用にし、頭部や腹部を近所へ分ける。  
カゴ盛りには高級メロンや果物、乾物などがたくさん盛られる。ナマガシは練り切り(白あんで作られた生菓子)で、手のひらが隠れるほど大きく、縁起の良い鶴・亀などをかたどっている。  
⇒結婚式当日に持ち帰ることが負担になったことから、遠方の方には、宅配便で届けられたり、縮小・簡略化されたりしている。



### 仏壇詣り (ぶつだんまいり)

花嫁は着物を白無垢に替え、嫁ぎ先の仏壇に手を合わせ、ご先祖様にあいさつをする。長男はもとより、次男に嫁いても本家の仏壇に詣る。仏壇の前でろうそくをともし、鈴を打つのは主である 舅。  
⇒結婚式の当日は嫁の実家から直接結婚式会場に向かうことが多くなり、一連のしきたりとしての仏壇詣りは少なくなったが、仏壇のある家では、何らかの形で仏壇に詣る。



発行: 砺波市立 砺波郷土資料館 Tonami Provincial Museum

〒939-1382 富山県砺波市花園町1-78 TEL:0763(32)2339 Email:shiryokan@city.tonami.lg.jp

昭和51年の砺波地方の嫁入り  
 砺波地方の風習にのっとりながらも  
 時代に合わせた嫁入りが主流になる



門送り(かどおくり)

嫁入りの当日、花嫁の親しい友達が嫁の実家に集まり、嫁ぎ先まで一緒に着いていく。



嫁ぎ先へ移動

仲人の女性が合わせ水の竹筒を持って先導する。



合わせ水(あわせみず)

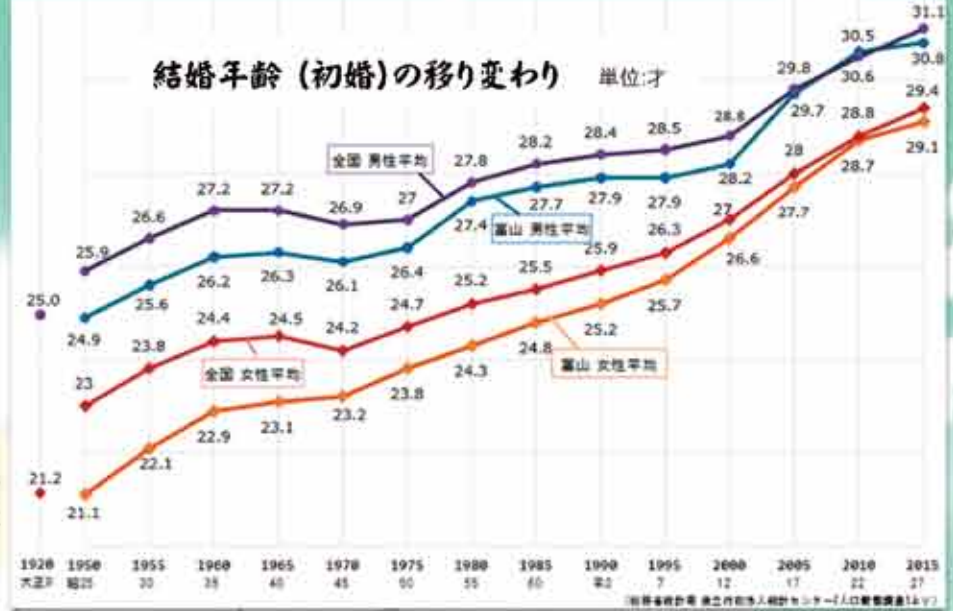
嫁の実家から持参した水と、嫁ぎ先の水を合わせて盃に注いで花嫁が飲む。その盃は参列者の目の前で、婿側の年配女性の手により玄関先の耳石(ミミシ)に打ち付けて割られる(元には戻らない)。粉々に割れると縁起が良く、「おめでとうございます」と言う。

合わせ水の筒



粉々に割れた盃

結婚年齢(初婚)の移り変わり 単位:才



時代の流れと砺波地方の挙式状況

項目	結納		嫁の実家(当日)			移動手段	嫁ぎ先の家(入る前)			嫁ぎ先の家(家の中)			結婚式			花嫁衣装		新婚旅行	
	なれそめ	取り交わす人	もの	結婚の時期	時間帯		仏壇詣り	門送り	近迎え	到着時の言葉	合わせ水	嫁の入り口	嫁のれん	仏壇詣り	式の間	披露宴	記録		髪
明治						駕籠													
大正	全く知らず(親が決める)	ナカド(仲人)・母親または両親	結納金・酒・スルメなど	農閑期(12月~4月)	夕方から夜間	馬・人力車					綿の藍染 綿の羽二重 綿の縮緬	ネワ(土間)		自宅	嫁も婿も宴席なし		二人の写真	高島田を結う	打掛 振袖
昭和	見合い	見合いと少し交際	仲人夫婦・両親・本人同士	春と秋	昼間	タクシー・自動車					嫁のれん		福祉会館	神社・料亭	親戚含む集合写真 スナップ写真	ビデオ	高島田のかつら	打掛・白無垢・ウェディングドレス	
平成	お見合い	婚活	結納金・酒・スルメ・宝船・昆布・友白髪など	春と秋	昼間	タクシー・自動車					玄関	レンタル	ホテル	レストラン	嫁と婿並んで	スナップ写真	ビデオ	高島田のかつら	打掛・白無垢・ウェディングドレス

明治37 日露戦争(～明38)

明治41 「戊申詔書」が公布され、勤儉節約が叫ばれる

明治末～大正頃の打掛

昭和初期の一般的な花嫁姿

日中戦争が起こると、婚礼も質素に行うのが風潮となった。婿がない家への嫁入りや、物不足のため着のみ着のまま、もんぺ姿の嫁入りも多かった

昭和15 総理府が提唱による生活様式の改善運動により、砺波市では連合婦人会が主となって結婚式などの簡素化運動が行われた

昭和30 連合婦人会が提唱する公民館での結婚式が増える

昭和39 旅行目的の海外渡航が解禁

昭和43 結婚式場と宴会場を備えた砺波市福祉会館がオープン、ピークの昭和47年度には121組の挙式が行われた。花嫁衣装は連合婦人会が購入し、安価で貸し出しもおこなった

昭和58-59 砺波市内に結婚式場がオープン(三愛・平安閣)

平成2 砺波市内にホテルオープン(ニチマ倶楽部) 福祉会館に結婚式場が無くなる

平成3 砺波市内にホテルオープン(砺波ロイヤルホテル)

平成10 ホテルや結婚式場のチャペルでのウェディングに憧れる

平成20 入籍のみ、結婚式無し「無し婚」

平成28 新郎新婦が両親や来賓者を感謝の気持ちでもてなす「おもてなし婚」

(平成10年の聞き取り及び平成30年の聞き取りなどにより作成)